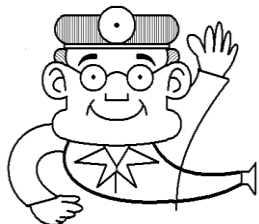


# 第13回 出前“いのち”を考える会 in 相生(通算第156回)報告



—聴覚障害者の医療を考える会—

2015年6月27日(土) 13時30分～15時30分

相生市立総合福祉会館 1階

参加者 33名 聴覚障害者 8名

医療従事者 5名

手話通訳者・その他 20名

テーマ 「知的発達障害」

講師：清水 純也氏

(しみず じゅんや) 臨床心理士

医療法人社団ほがらか会

室井整形外科・心療内科

出前“いのち”は「学習のテーマに関心があるけれど…神戸まで夜に出かけるのには遠くてなかなか参加できない」という遠隔地域の方々の声に応え、2003年11月柏原で第1回を開催したのが始まりです。

西播地域での開催は龍野市、赤穂市、宍粟市に続き今回の相生市で4回目になります。

講師の清水純也氏のお話は、経験に基づいた話、学会・文献など幅広い範囲で準備されたスライドを沢山準備していただき、視覚的にとらえながら学習する事ができるように、工夫されていましたが…

・専門的用語が多いが板書が少ない、配布資料がなかったこと、聴覚障害者に対する講義は初めてということもあり、目と目を合わせて話しかける姿勢があまりなく、身長もお高いせいで、参加者との距離感を狭められなかった点が、企画(手話通訳者)側として、少々残念な思いがしています。この学習会で少しでも聴覚障害者の事を知ってもらえる機会になっていれば幸いです。(すみません…)



## 【講演内容】

### 1. 用語の変遷

「精神薄弱」(人格否定をいわれる)

1970年代「精神遅滞」と医学領域で用いられていたが、誤解を招くことばであり

1990年代になり「知的障害」という表現が用いられるようになった。

今回の講義テーマ「知的発達障害」は地元のニーズにお応えして設定したテーマでしたが、講師いわく～「知的障害」「知的発達障害」「新型うつ」いずれも正式な名称でなく一般的に使用される名称であるとのこと。

### 2. 「神経発達障害」DSM-V (ディーエス エム ファイブ)

という大分類の中の一つに「知的障害」が含まれる

- |             |              |
|-------------|--------------|
| ・知的障害       | ・コミュニケーション障害 |
| ・自閉症スペクトラム  |              |
| ・注意欠如、多動性障害 |              |
| ・特異的学習障害    |              |
| ・運動障害       |              |
| ・他の神経発達障害   |              |



### 3. 「神経発達障害」DSM-Vの診断基準

知的能力の高い・低いではなく、実際的な生活適応能力の高低を診断基準とるように見直しがされており、『学力領域』『社会性領域』『生活自立領域』において、実際のくらいのレベルで適応できているかで判断される。



### 4. 知的障害の診断基準

- ・ 知的能力が低いこと
- ・ 適応能力が低いこと
- ・ 発達期（18才）までに現れていること

### 5. 知的障害のある子供の特徴

- 1) 言葉がなかなか覚えられない。  
→言葉がでてこなくて、言葉の意味が分かっていない場合は、知的障害が疑われる。  
単に個人差で遅れている場合もある。  
→子供が言葉の意味を理解しているか、発音の仕方に特徴はあるかなどに注意して、見極める。
- 2) 物事を記憶しておくことができない  
→他の子より覚えるのが苦手、たくさん覚えられないし、長い時間覚えていられない。  
同じことを何度も繰り返していれば記憶に定着することができる。
- 3) 動きがぎこちなく細かい作業が苦手  
→知能だけでなく運動の発達にも遅れが目立つ、一時的なものもあれば、脳性マヒのように一生残るものもある。  
運動能力を鍛えることが子供の安全につながる。  
→転倒などの事故を防ぐため身体を動かすようにする。  
細かい動きの必要がない運動や、自分から身体を動かすように楽しく運動することが必要。

### 6. 発達障害と診断される子どもの増加

最近まで、発達障害と診断される子どもの多くは、知的障害がある子どもだった。

<LD ADHD 自閉症スペクトラム>など、部分的な発達の遅れにも注目が集まるようになっていった。

精神科外来に「自分は発達障害ではないか」と受診してくる成人の患者が増加している。仕事や生活面に何らかの支障を来している人が多い。

- LD（学習障害）とは、知的発達の遅れは見られないが、特定の能力に著しい困難を示すものです。
- ADHD（注意欠陥多動性障害）とは、発達段階に不釣り合いな注意力や衝動性、多動性を特徴とする行動の障害です。  
両者ともに脳などの中枢神経系に何らかの機能障害があると推定され、発達障害に分類されます。
- 自閉症スペクトラム  
自閉症スペクトラムというのは、自閉症に似ている状態像をひとつくりにして捉えるというもの。例えば、知的な遅れが伴う自閉症、知的な遅れが伴わない高機能自閉症、言葉の遅れが見られないアスペルガー症候群などをひとまとめにして、自閉症スペクトラムと呼ぶ。  
どれも若干の違いはあるものの、強いこだわりや対人関係のうまくいかなさなどを持ち合わせている。

- ・社会性……人よりも、ものに関心がある。  
お母さんと遊ぶよりも、ものを並べるほうが好き。変化への抵抗（お母さんの髪型）注意共有の指差し（普通は1歳、3～4歳くらい）要求の指差しはそれほど遅れない。
- ・コミュニケーション……言葉の遅れ  
(独り言が多い、オウム返し)  
行く/来る、ここ/そこ など視点の違う言葉に混乱
- ・イメージネーション……ふり遊び（普通は1歳半、2～3歳まで出てこない）ごっこ遊び（普通は3～4歳）



## 7. 発達障害がある方のコミュニケーションの問題に関わる具体例

- ・些細なことでも柔軟に交渉できない
- ・率直にものを言いすぎる
- ・自分だけが長々と話し続ける
- ・断りなしに話題をかえる
- ・相手を不愉快にさせる言葉づかいをする
- ・視線、表情、対人距離などの問題
- ・相手の言葉の意味を推論できない
- ・冗談や比喻、反語の理解が困難

## 8. 基本的な接し方

- ・簡単な言葉で具体的に指示する、指示したことが適切に行われたか行動の後に確認する。
- ・一度にたくさん伝えない
- ・質問するときには抽象的な質問を避けて、できる限り本人が「はい」「いいえ」などで簡単に答えることができるようにするなどの工夫が有効。
- ・言葉以外に視覚を利用した伝達方法をとる

### ○全体的に心がけること……（一般的にも心がけたいことです）

■作業やトレーニングの際、「どこで」「いつ」「何を」「いつまで」「どのようなやり方で」やるのか、「どうなったら終わりなのか」の手順を追うようにし、問題の整理や順序だてて自分で出来るようにする。

※空気を読む、適当になどの曖昧な状態はストレスが強く適切に判断することが難しい。スモールステップを設定し成功体験を積むことによって自尊感情を高め「できること」を増やしていく。正のフィードバックを意識して行う。

○本人にとって、より快適な環境を用意する。生活に必要なスキルを身に着ける。



西播地域の皆さん～お疲れさまでした。そして、有り難うございました。

いつもは神戸地域、あすてっふ神戸で開催しています。多くの皆さまの参加をお待ちしています